

〔8番 徳島純次 登壇〕

○8番（徳島純次）

それでは、お許しをいただきましたので、質問をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の感染者拡大により、行動制限、マスクの着用、手指消毒等、いろいろ制約があり、学校において子供たちが伸びやかに学校生活を送ることができなくなり、また、家庭生活環境も大きく変化し、子供たちは大きなストレスを受けています。マスクの着用により話す人の表情は読み取れないために、コミュニケーションが取りにくくなり、人と人の距離が広がり子供たちが不安や悩みを相談できなかつたり、周囲の大人が子供たちの表情を観察する困難さが増したりして、子供たちの助けを求める声なき声を受け止め難くしている可能性があるのではないかと危惧しています。コロナ禍の影響でストレスを受ける児童生徒が増えて、生活リズムの乱れや交友関係の築きにくさが影響し、不登校やいじめが増加している報道を見聞します。飛騨市の状況と対策、課題について伺います。

1つ目、小中学校における不登校について。文部科学省では、不登校児童生徒とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義しています。「令和3年度問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」では、全国の国公私立小中学校2万9,770校で令和3年度に積算で30日以上欠席した不登校の児童生徒数は24万4,940人となります。前年度に比べ4万8,813人増えて、過去最高となっています。小学校の在学児童生徒数は、前年より7万1,460人、1.1%の減少をしていますが、不登校児童数は1万8,148人増えて8万1,498人。中学校の在籍生徒数は2万1,938人増加して、不登校生徒数は16万3,442人であり、前年度に比べ3万665人増加しています。小学校、中学校ともに過去最高となっています。この傾向は飛騨市も変わらないと思います。

昨年9月議会において沖畑教育長は「昨年度、年間30日以上欠席児童生徒数は小学校14名、中学校23名」と回答されています。更に「不登校の要因は様々で複雑です。当人にも理由が分からないことがほとんどで、長期化してしまうことも少なくありません。」また、「飛騨市教育委員会や学校が大切にしているのは、その子が動き出そうとするまでの期間を本人とご家族に寄り添い支え、人が社会との関係をつなぎ続けることと、その子が動き出す際に必要となる学びに向かう力を育成するために、一人一人に合った学び方を提供していくことです。」と述べられています。そこで、不登校について3点伺います。

不登校児童生徒の登校状況と現状評価と課題。令和3年度調査では、指導の結果登校するまたはできるようになった小学校児童2万2,119人、中学校生徒4万5,925人、指導中の児童生徒は小学校児童5万9,379人、中学校生徒11万7,517人となっています。飛騨市は家庭へ毎週1回は担当が訪問して、状況を見ながら飛騨市教育相談室「グリーンルーム」の相談員につないでいるとのことですが、令和3年度の不登校児童生徒37人のうち、学校や飛騨市教育相談室グリーンルームに相談された結果として、登校できるまたはできるようになった児童生徒数とその割合及び指導中の児童生徒の割合はどれほどでしょうか。また、不登校の状態が前年度から継続している児童生徒は、文部科学省の令和3年度の調査では小学校41.9%、中学校51.1%となっていますが、飛騨市はどのような状況でしょうか。これらを踏まえてどのように評価しているか、今

後の課題をどの様に考えられているかを伺います。

2点目、不登校の要因は。不登校の要因のトップは小中学校で「無気力、不安」で49.7%、続いて「生活リズムの乱れ、あそび、非行」11.7%、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」9.7%、「教員との関係をめぐる問題」というのも1.2%あります。この順位は令和2年度と同じです。

一方、「令和2年度不登校児童生徒の実態調査」を見てみますと、小学校不登校児童が最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけのトップは「先生のこと（先生とあわなかった。先生が怖かった。体罰など）」が29.7%、「体調の不良」が26.5%、「生活リズムの乱れ」が25.7%と続き、25%以上は「友達のこと。いやがらせやいじめがあった」や「きっかけが何か自分でもよくわからない」があります。これは教員が回答した調査と児童生徒が回答した調査の結果ですが、児童生徒と教員それぞれが感じているいじめの要因に食い違いがあります。

不登校児童生徒へ効果的な支援を行うためにも、不登校児童生徒の一人一人の不登校のきっかけ、不登校が続いている理由についての的確に把握することが重要であり、不登校児童生徒が増加していることの要因の分析、解明が必要となりますが、飛騨市の不登校の原因と不登校が増えた要因、もしくは減少した要因をどの様に分析をし、今後の対策につなげて行くのかについて伺います。

続いて3点目、不登校児童生徒への多様な教育機会の確保について。文部科学省の通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」に、不登校児童生徒の一人一人の状況に応じ、教育支援センター、不登校特例校、フリースクールなどの民間施設、ICTを活用した学習支援など、多様な教育機会を確保する必要があることとあります。飛騨市には飛騨市教育相談室グリーンルームが古川町と神岡町にあり、学習相談や個別相談、集団生活への適応指導、学校復帰指導、カウンセリングや他の関係機関と連携した援助・指導等を行い学校への登校になじめない、登校に抵抗を感じている児童生徒を支援していますが、不登校児童生徒が利用をしたくてもグリーンセンターは2町にしかなく距離的な条件等で利用が困難な児童生徒はいないのでしょうか。河合町、宮川町の利用希望者は移動距離が長く移動手段が必要で、児童生徒と保護者に負担がかかり利用を困難にすると思いますが、河合町、宮川町において週1～2回程度の開設をすることができないのでしょうか。または、支援センターに出向くには抵抗を感じる児童生徒・家族に対しては、GIGAスクール構想で配布された端末機を使用した相談、学習指導やカウンセリング等を行なう支援の検討が必要ではないのでしょうか。

飛騨市には、民間施設のフリースクールはなく居場所が9箇所ほどフリーペーパーに紹介されています。児童生徒が自分に合う居場所を選べる機会が多くある方が望ましいと思います。社会福祉協議会「なかよしキッズ」は、障がい児通所支援事業所で家庭的な雰囲気でも親子もあんなになれる憩いの場として、仲間同士有意義な過ごし方ができる場、障がい児と保護者、地域の方等の交流の場、学習面での困り感を抱えている児童に対する一人一人丁寧に支援を行い、一緒に考えるを行っている事業所です。なかよしキッズの職員の皆さんは、子供の主体性を尊重し、自己肯定感を育成し、社会的に自立できることを目指して努力されています。なかよしキッズでの不登校児童生徒の支援が可能になれば様々な立場の子供とともに学び、遊ぶことができ、社会性が身につく、将来の社会的自立の育成ができると思います。なかよしキッズを不登校児童生徒の居場所とする対応を検討したらどうでしょうか。市の考えを伺います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔教育長 沖畑康子 登壇〕

□教育長（沖畑康子）

小中学校における不登校について3点お答えさせていただきます。

まず、不登校の状態が前年度から継続している割合は、令和3年度は小学校50%、中学校60%ほどです。不登校児童生徒の登校状況につきましては、先ほどの障害のある方の場合と同様に、その子によって様々です。ある日突然復帰し、そのまま継続している子もいますが、登校する時間や日数を増やしたり減らしたりしながら、少しずつ学級に足が向いていく子、しばらく登校していたけれども続けられなくなる子など、様態が異なるため、数値として一言で表すことがなかなか難しいところですが、現時点で欠席が昨年度より減りまして、30日以下に減った児童生徒は2割弱といったところでございます。しかし、全ての子がその子なりの成長であると捉えています。私たちは、行きつ、戻りつを繰り返しながら、それでも一歩ずつ前に進む子供たちを支え、励まし、動き出すための力を蓄えること、人や社会との関係をつなぎ続けることの支援を心がけているところでございます。

2点目、不登校の要因についてでございますが、市内においても、全国と同様に無気力、不安が不登校の大きな要因となっています。不安を感じる中身については、友人関係や学習面、家庭環境など様々です。また、自分でもよく分からない漠然とした不安で苦しんでいたりと、本人の話していることと別のところに要因があることが分かったりもします。一人一人事情が異なっているわけです。

学校では、その一人一人の不安や悩みに共感し、1つずつ解決するために、学級担任や教育相談主任、相談員、養護教諭などが連携して、その子や保護者の話を傾聴し、不安や悩みに寄り添う姿勢をベースに支援をしています。同時に、つらいことや苦しいことに対して、自分からヘルプサインを出すためのスキルトレーニングを行ったりもしています。学級担任だけでなく、自分が話しやすい先生に相談するための心のサポーターを決めている学校もあります。

不登校の対策は、未然防止が第一です。誰もがもっている弱い自分や苦しい心をさらけ出せる、心理的な安全性を確保すること。その上で、困難な状況に対しても、仲間と支え合い、乗り越える力を育んだり、つらい時は仲間や先生が支えてくれる環境を整えたりすることを、どの学校でも大切にしているところでございます。

3点目、不登校児童生徒への多様な教育機会の確保についてですが、先ほども述べましたけれども、不登校となる要因は一人一人違い、複雑に絡み合って登校できない状況になる場合が多くあります。だからこそ、議員がおっしゃるように、一人一人の状況に応じた多様な教育機会を確保することは、とても重要なことです。

河合町や宮川町におけるグリーンルーム開設については、開設場所や相談員などの課題もありますけれども、現在、設置している古川町や神岡町も含め、グリーンルームが不登校児童生徒にとって、より利用しやすい施設となるように検討してまいります。なお、情報端末を利用した相談や学習指導については、スタディサポーターの配置とともに整備済みであり、それぞれの希望に応じて対応しています。

また、なかよしキッズの利用のご提案は、困っている子供たちの学習の場として選択肢が増える大変喜ばしいとこだと捉えております。すでに社会福祉協議会と福祉部局が連携し、放課後等デイサービス施設を利用するために必要な条件である福祉サービスのための受給者証を市として発行し、利用できるよう整え、この3月から既に利用が始まっているところでございます。なかよしキッズの指導者の方々は以前から存じ上げておりますが、本当にきめ細かで、大変信頼できるご指導をされていると承知しております。今後はスタディサポーターの訪問も加えながら、さらにどのように展開したら良いかを考えてまいりたいと思います。

これからも、各関係機関とも連携を図りながら、不登校児童生徒への多様な教育機会の場の確保と成長への支援に努めてまいります。

〔教育長 沖畑康子 着席〕

○8番（徳島純次）

3点回答いただきました。不登校の中にはですね、不登校は30日以上というふうになっていますが、長期欠席者は90日以上の方もいらっしゃると思うんですが、中には全く出てこれない方もいらっしゃるんじゃないかと思いますが、90日以上、3か月近くですが、欠席をされている児童というのは何%ぐらいいらっしゃるのでしょうか。答えられたらよろしくお願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（沖畑康子）

年度によって前後いたしますけれども、大体半数か、もう少し多いくらいだと思っております。

○8番（徳島純次）

全国的な傾向を見ますと、今、教育長が言われたように五十何%というのがあるので、大体同じような傾向を示すのではないかなと思います。3か月以上休まれている生徒にどのようにして教育機会を与えるか。先ほど教育長も非常に難しいんだと、各個人個人のそれぞれの理由によって、一律ではないので難しいとは思いますが、教育をするのは非常に大切なことですし、今後のその人の人生を考えたときに、やっぱりどうしても基礎的な教育が必要だと思われまので、この長期欠席の方たちへの支援をですね、今の状況で50%以上の休みなので半分近くは出てみえないということであるから、もう非常に芳しい状態とは言えないと思うので。これを少しでも改善するために、今やっている以上の何らかの方法が考えられるのかどうか、その辺を考えて、さらにその不登校児童を減らしていくというのが望ましいのですが、もし、そのようなお考えがあればお聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（沖畑康子）

大変難しいところでございます。と申しますのも、子供たちがもちろんいろんな場で、どの場でも学びに向かおうとするのであるならば大いに支援ができる場所なんですけれども、なかなかそのところまでいかない場合も大変多くございます。ですから、しばらく休んでいたりとか、いろんなカウンセラーであるとか、お医者様のご助言をいただきながら、子供たちの状態を見極めながら、どんな支援をそこに加えていくか。今もう少し刺激を与えようかとか、今は控えなく

てはいけないとか、そんなことを日々見極めながらやっているところがございますので、なかなかこれといった解決策が見いだせてはおりません。

○8番（徳島純次）

非常にご苦労されているんだなというのはよく分かりますし、努力されているというのも非常によく分かります。グリーンルームがありますが、これは不登校児童を支援するために設けられているわけですが、伺ったところによると、37人の不登校児童生徒がみえるわけですが、利用されたことがある方を見ると、そんなに多い比率ではないように思いますね。

このグリーンルームの利用する、しないはもちろん当事者のほうの思いなので、こちらから一方的に利用してくださいというわけにもいかないのは重々承知なんですけど、せっかくあるグリーンルームにはスタッフもそろえて設置されている施設なので、この利用する率をもう少し上げたらどうかと、上げるような努力をしたらどうかと思うんですが、今のままですと、かなり低い率だと思うんですね。その辺の何かお考えがありましたらお聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（沖畑康子）

先ほども申しましたが、こちらが上げたいと思って上がるものではないということをご承知いただきたいと思います。ただ、年々、今グリーンルームの利用は増えてきています。それは、長期の欠席のお子さんがいらっしゃるということもあるんですけども、少しずつ少しずつ相談員と信頼関係を築きながら、そんな状況ができてきているというところがございます。今年度はかなり相談員も忙しくなってきたんですけども、家庭訪問をずっと続けて、1年～2年ほどやってグリーンルームに足が向くようになったという子さんもいらっしゃいます。そこから今度は、学校へ足を向けてみようかなというように話をしていくことを聞きますので、本当に少しずつ無理をしないでその子の歩みに寄り添いながら、背中を少し押して、背中を少し押してという形で進めていっているところがございます。

○8番（徳島純次）

先ほどもちらっと言いましたけど、生徒自身にですね、これは令和2年度でありますけど、学校に行きづらくなったきっかけは何かというアンケート調査の結果を見ますと「無気力」というのもあるんですが、その他に生活のリズム乱れというのもあるんですけど、これなんかは、どちらかというと家庭のほうの問題もあるのかなというふうに思われますし、あと、今いじめを除く友人関係というのも結構上位にきているんですね。そうすると、学校へ行っての友人関係が作りにくいということなんだろうと思うんですが、こういうのを何とか支援していこうということなんですよ。

もう1つ思うのは、今、不登校の児童生徒に焦点を当てていろんなサポートをしましょう、やりましょうということで、非常に手厚く努力されていますし、先生方も大変な思いをされていると思うんですが、学校の生徒に、例えばいじめが原因であるとか、人間関係をつくりにくいというようなことがあるんですが、こういうものをいくらでも減らすための、在校生徒に対する教育というか、いじめに対する教育ですね、そういうものを実施されているかどうかをお伺いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（沖畑康子）

先ほども申しましたが、未然防止はもちろん第一と考えておりますので、繰り返しになりますが、自分の心をさらけ出せるような心理的な安全性を確保したりですか、困難な状況に仲間と助け合ってやるとか、それから自分の好きなことを追求していくような、今、古川中学校とも始めている「古川中マイ・プロジェクト」のような学習を行ったり、それからもちろんいろんなことについて、教師も声をかけ、そして人間関係づくりということも学級経営の中で十分力を尽くしているところでございます。

○8番（徳島純次）

1つ気になるのは、先生方のアンケート調査の結果とですね、生徒児童が感じているきっかけに少し差異が見られるというのがあるんですが、1番である無気力不安というのは両方とも同じなんですけど、そのほかに先生方は当然なのかもしれないですけど、先生が原因になっているというのはほとんどないんですが、生徒のほうには1.2%ほど先生がきっかけだというのがあるんですね。それは初めての学校なので恐怖があるとかとていうのもあるんですけど、ただ、その中には、暴力的なことと言うんですかね、先生方から生徒に対するものが入っているんですけど、それは、飛騨市ではないとは信じていますけど、その辺の、生徒が感じて不登校になるきっかけと、先生が感じているこれが不登校のきっかけ、アンケート調査ですから、生徒が答えているのだろうとは思いますが、その辺の差異はどこから来ているとお考えですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（沖畑康子）

それは、十分に理解ができていなかったことがあるのかもしれませんが、ただ、それぞれ、先ほども申しましたように、理由は本当はそこではなかったということも後からわかってきたりも多くございます。ですから、そのときにしゃべったこと、そのことが本当にそうだったということではない場合もあります。もちろん、不安がうまく自分でもわからないし、でも、見ても分からないということもあるんですけど、そののところも、じっくりじっくり寄り添いながらそれぞれが理解していくようなことを努めているところでございます。

もちろん保護者ともしっかりと面談させていただいておりますし、お互いに思われることを話し合いながらなんとなくつかんでいけたらいいかなということで行っています。

○8番（徳島純次）

それでは2点目に移らせていただきます。

同じ不登校児童生徒諸問題の中に入っているんですが、いじめについてです。令和3年には、北海道の旭川市でいじめを受けていた中学2年生が凍死した。東京都町田市立小学校に通っていた6年生の女子児童が「いじめを受けていた。」などとするメモを残し、自死していたなどの大変痛ましい事件の報道がありました。令和2年度の小中学校におけるいじめの認知件数は、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、生徒間の距離が広がったこと、授業のグループ活動や学校行事、部活動が制限され、子供たちの対面での会話の減少、接触行動が減少したことにより、

前年度より15.1%の減少になりました。」とあります。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、学校での部活動や行事が感染対策をしながら徐々に再開されたことにより、いじめは増加となっています。令和3年度の小中学校におけるいじめを認知した学校数は、小学校1万7,163校、88.1%にあたります。前年比192校の増加。中学校は8,557校、83.2%に相当します。前年比72校の増加です。いじめの認知件数は59万8,499件であり、前年度に比べ、9万6,725件、19.3%増加しています。またいじめにより、児童等の生命、心身及び財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められた重大事態、280件、38.5%。小学校158件、中学校122件、前年比95件の増加。いじめにより、児童等が担当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認められた重大事態、366件、前年比68件と増えています。

いじめの発見のきっかけはアンケート調査など、学校の取り組み54.3%、本人からの訴え18%、本人の保護者からの訴え10.7%、学校担任9.5%、養護教諭・スクールカウンセラー等の相談員の発見は0.4%となっています。

また、いじめられた児童生徒の相談先は学級担任が82.7%、保護者や家族等が21%となっており、養護教員・スクールカウンセラー等の相談員、学校外の相談機関への相談は3.8%となっています。誰にも相談をしていないも4.6%あります。

いじめの形態は冷やかしかからかい、悪口やおどし文句、嫌なことを言われるが57.9%、遊ぶふりをしてたたかれたりするが23.3%、仲間外れ・集団により無視されるが11.9%と続き、金品をたかれるも0.9%あります。また、パソコンや携帯電話で誹謗・中傷や嫌なことをされるも3.2%あります。これは「令和3年度問題行動不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」によります。

飛騨市も同様の傾向と思われませんが、令和2年、令和3年、令和4年の飛騨市におけるいじめの認知件数はどのように推移したのでしょうか。また、いじめの要因の主なものはどのようなのでしょうか。IT社会の進展により、GIGAスクール構想によるタブレット端末を持つ子供が増え、家庭では子供たちが自分用のパソコン、携帯電話、スマートフォンを持つことが多くなり、これらを利用したいじめが増加することは想像されます。

いじめをさせない、いじめを見逃さないためには何が不足していて、今後どのように支援し、指導していくかをお伺いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔教育長 沖畑康子 登壇〕

□教育長（沖畑康子）

それでは私から、飛騨市のおいじめについてお答えをいたします。

飛騨市におけるいじめの認知件数は、令和2年度が218件、令和3年度が189件、令和4年度は2月までで108件と減少の推移をたどっています。いじめの主たる形態は、冷やかしかからかいが49%、軽くぶつかる、叩かれるが24%と、全国と同様の傾向にあります。いじめの認知件数の減少につきましては、学校としていじめにつながる案件を見逃さず、丁寧に指導を行ってきた成果だと捉えています。

一方で、減少していることに安心せず、見えないところでの陰湿ないじめや、相談できずに困

っている子がいることなど、あらゆる可能性を考えて対応することを学校と共有しているところ
です。

令和4年12月、生徒指導提要が12年ぶりに改訂されました。生徒指導提要とは、いじめや不
登校等について、考え方や指導方法、個別の対応などをまとめた教職員用の指導書のことで
す。そこに示されているように、各学校においていじめ防止基本方針の見直しや、学校いじめ対策組
織の構築を図っています。また、飛騨市学園構想に掲げている、地域連携を核とした探究的な学
びは、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める教育活動として有効であり、充実を図って
いるところでございます。

今の子供たちが迎える社会は、デジタルを活用することが前提となりますから、子供たちがそ
のリスクを理解し、安心安全に利用しながら可能性を広げられるようにすることが必要です。デ
ジタル機器やネットを賢く使う合理的活用ができる人材を育成しようとする「デジタル・シテ
ィズンシップ教育」を推進してまいります。具体的には、これまでの約束やルールをつくり「何々
はしない」という指導から、子供たちがデジタル社会の良さや危険性について知識や技能を習得
するとともに、起こり得る問題を想定し、解決方法を考え、行動に移すといった学びです。それ
により、子供たちの判断力や調整力等が育ち、伸び伸びと学校生活を送ることができるものと考
えます。

〔教育長 沖畑康子 着席〕

○8番（徳島純次）

いじめが徐々に減少している、非常に素晴らしいなと思いますし、件数的に言うと、全国平均
から見るとかなり高いなとは思いますが、その分、学校の先生方が感度を良くして、早期に摘
んでいるんだろうなというふうに思いますので、件数が多いから駄目だということではないと思
っています。そうは言いながら、やっぱり平均より多いので、これを下げてもらうのは必要な
んだろうとは思いますが、今後さらに努力をしていただいて、いじめを根絶していただきたいな
と思います。そのために、スクールカウンセラー等との連携も必要になりますでしょうし、先ほ
どの不登校も含めてですが、家庭訪問なんかもされているので、学校の教師の数としては足りて
いるのでしょうか。それとも、そういう家庭訪問されたりしている先生には負荷が多くかかっ
ているということはないのでしょうか。その辺を伺います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（沖畑康子）

学校では組織で対応しております。担任だけに負荷がかからないように、いろんな関係者がチ
ームになって対応しておりますので、そういうことがないようにしているところでござい
ます。足りているかとお聞きになられれば、どれだけでも、多ければ多いほどいいという思いもござ
いますが、決まったところでやっていくことが、それが仕事だと思っておりますので、みんなそこ
に向けて頑張っているところでございます。

最後にすいません、こちらから一つ。いじめに関する定義について少しお話をさせていただ
きたいのですが、皆さんが捉えていらっしゃるようないじめというのは昔と言いますか、行ってい
たのは社会通念上のいじめとして継続的であったり、複数であったり、力の差があつていじめた

り、一人を孤立化させたりとか、非常に大きな差別的行為を行ったり。また、先ほどおっしゃられましたように金品を要求したり、暴力、そういうことが考えられると思いますけど、今、私たちが、学校がいじめとして捉えて、この件数に挙げているものにつきましては「そんなものいじめかよ。」とおっしゃられるかもしれませんが、ごく初期段階のいじめ、例えば授業中に答えが間違っていて「お前、そんなことも知らんのかよ。」という言葉かけたときに、その子がショックを受けて傷ついた、それもカウントいたしております。そうした口論であるとかたたくさんあるんですけど、それを一つ一つきちんと対応していく。それを子供たちに「お前はいじめたよ。」と言うかどうかは別としまして、きちんと見つけて、いじめのもとになりそうだとすることで対応していくということが学校の教育として行っているところでございます。

ですから、件数は大変増えております。この見直しが行われたのは、重大ないじめが起きて全国の中でいじめがないと言っていた、本当はないのかということを引ききちんと捉えられるようにしようということで始まったこととございます。県によって、地域によってばらつきはございますけれども、岐阜県はこれくらいは普通のところとしてみんな捉えているところでございます。

○8番（徳島純次）

今伺ったいじめ、私たちの頃とは随分違うなというふうに思いますし、私も前にどこかで聞いてですね、「いじめは本人が嫌だなとか、少し嫌な気持ちになれば、もうそれはいじめだよ。」というふうに伺っていましたので、今言われたように発表中に横から何か言ってですね、その子が嫌と思えば、もうそれはいじめに相当するというふうには捉えています。それなので先ほど言ったように、件数が増えたからといって、それがいじめ増加で駄目だよというわけではなくて、むしろ先生方の感度が高くなったんだなというふうに私は捉えていたんですが。

あと1点ですね、これは、ほかのところでやっているからやってくださいというわけじゃないんですが、こういうのもいいんじゃないかなと思ったのは、先ほどICT、GIGAスクールで配付されている端末をいろいろ利用して、学習にもいろんなものにも使うという話がありましたけど、全国でも少しずつ増えているみたいですが、朝学校へ来たら自分の気持ちを絵文字で出す。また帰りに入れる、もしくは昼に入れて3回入れるところもあるみたいですが、それによって学校の生徒はどういう気持ちの変化がその学校在学中にあったかというのを見て、学校の中でどういったことが起きたかを想定するし、個人個人の指導にそれを活用していけるというふうに乗っていました。入力するにしても絵文字を選択するだけなので非常にいいのかなと思いました。

こんなようなものも活用してですね、せっかく配付されている端末機なので、これをぜひ利用していただいて、不登校だとかいじめの撲滅に努力していただきたいというふうに思います。

これで私の質問を終わります。

〔8番 徳島純次 着席〕

◎議長（澤史朗）

以上で、8番、徳島議員の一般質問を終わります。